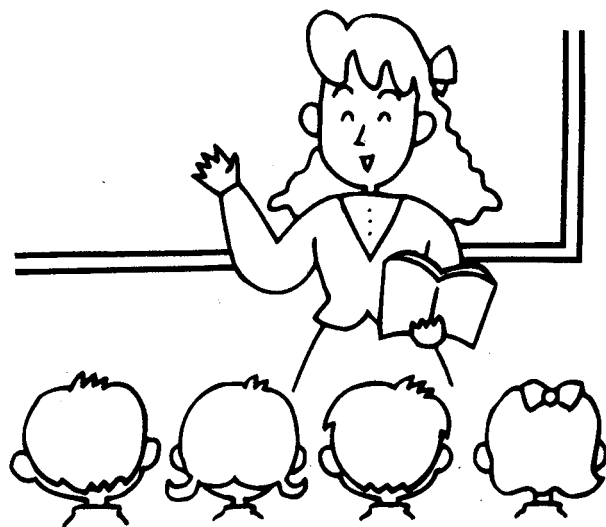


通常の学級の先生へ

～自閉症児の支援マニュアル(試案)～



特殊研 F-111

平成 13～15 年度科学研究費補助金(基盤研究(C))の成果報告資料(試案)

研究課題：通常の学級における自閉症児の支援マニュアルの開発と運用に関する実証的研究

課題番号：13610349

研究代表者：廣瀬由美子（独立行政法人国立特殊教育総合研究所分室 主任研究官）

研究分担者：東條吉邦（独立行政法人国立特殊教育総合研究所分室 室長）

加藤哲文（上越教育大学 教授）

<目 次>

<はじめに>

マニュアルの使い方	1
Q 1 登下校の問題について	2
Q 2 学校生活の基本的なルールの獲得について	4
Q 3 校内を動き回る場合	6
Q 4 他の児童の話を受かない場合	8
Q 5 教師の話を受かない場合	10
Q 6 状況に束係のない発言をする場合	12
Q 7 他の児童と違ふ行動をする場合	14
Q 8 他の児童と別メニューで学習する場合	16
Q 9 学習のルール理解・準備や片付けに束して	18
Q 10 指示理解や学習遂行上の問題に束して	20
Q 11 授業中の問題と思われふ行動への束応	22
Q 12 体育に束ける束慮	24
Q 13 音楽に束ける束慮	26
Q 14 図工に束ける束慮	28
Q 15 家庭科に束ける束慮	30
Q 16 学習発表会、道徳等の劇活動に束して	32
Q 17 休み時間における束慮	34
Q 18 休み時間中の問題と思われふ行動への束応	36
Q 19 級友とトラブルが起きた場合の束応	38
Q 20 遊びの技術、ルール理解に束する束応	40
Q 21 係活動に束して	42
Q 22 給食に束ける束慮	44
Q 23 清掃時に束ける束慮	46
Q 24 全校集会等における束慮	48
Q 25 校外学習（遠足等）における束慮	50
Q 26 運動会における束慮	52
Q 27 入学式・卒業式における束慮	54
Q 28 避難訓練における束慮	56
Q 29 特殊学級・通級指導教室担任との連携に束して	58
Q 30 保護者との連携に束して	60
Q 31 TTあるいは個別支援者による指導に束して	62
Q 32 専門機関（大学や病院等）との連携に束して	64
Q 33 衣服の着脱、管理に束する束慮	66
Q 34 排泄に束する束慮	68
自閉症の特徴に束して	70
高機能自閉症、アスペルガー症候群などの特徴に束して	73

<はじめに>

通常の学級で自閉症児を指導する学級の先生方に、「支援マニュアル」を作成しようと考えた経緯は、国立特殊教育総合研究所分室の一般研究のテーマであった、「通常の学級における自閉的傾向のある児童の教育に関する研究（H12～13 年度）」がベースになっています。この研究では、平成 13 年 1 月に「通常の学級における自閉症および自閉的傾向のある児童の実態調査」も行っていますが、その調査では、自閉症児らを指導する 184 人の通常の学級担任から有効な回答を頂きました。その結果では、通常の学級で自閉症児を指導する場合、教師にとって必要な支援の一つに、自閉症児への対応のマニュアル（支援マニュアル）がありました。

また、平成 13 年 1 月に文部科学省から出された『21 世紀の特殊教育の在り方について（最終報告）』では、知的障害を伴う自閉症児や、通常の学級に在籍する高機能自閉症等の教育的対応に関しても記述がなされています。さらに、文部科学省における特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議からは、『今後の特別支援教育の在り方について』の中間まとめが、平成 14 年 10 月において出されています。その中間まとめによると、特に高機能自閉症等の教育的定義や判断基準が明記されるとともに、このような子どもは通常の学級における指導を基本としていることから、通常の学級担任にとっては、ますます自閉症児への対応のマニュアル（支援マニュアル）が必要になってくると考えられます。

そこで、平成 13 年度～15 年度科学研究補助金基盤研究(C)(2)：「通常の学級における自閉症児の支援マニュアルの開発と運用に関する実証的研究」のテーマにおいて、研究分担者や研究協力者の先生方とともに、「通常の学級の先生へ～自閉症児の支援マニュアル（試案）～」を作成しました。今回の支援マニュアルは、マニュアル作成にあたり、前回の調査に協力して下さった通常の学級担任 121 名から、学級担任が知りたい情報や必要と思われる対応方法等について、児童の登校から下校までを 1 日の時間系列に従って 48 項目作成し、それぞれの項目に関してその必要度を調査した結果から、Q&A 方式で 34 項目にまとめました。

この支援マニュアルに関する研究代表者の意図は、まず多くの学級担任に自閉症の特性を理解して頂き、学級担任が対象の子どもの記録をマニュアルの中に積み重ねていくことで、マニュアルの内容がより一人一人の自閉症児への支援や対応に近づくことを願って作成しています。ですから、マニュアルの各項目には、毎回＜こんな状態は自閉症の特性からきています＞という欄を設け、＜こんな場合の支援 1＞では知的障害を伴う自閉症児を、＜こんな場合の支援 2＞では、高機能自閉症児等を念頭に記述しています。このページでは、学級で対応する際、対象となる自閉症児の具体的な問題やその対応方法、さらにその後の様子を記録できる書式を設け、学級担任の眼（記録）を通して、よりオーダーメイドマニュアルに近づける工夫を考えています。

しかし、現時点ではあくまでも試案として作成したものですから、平成 15 年度は、この試作を通常の学級担任に実際に活用して頂き、その結果から再度修正を重ねて、平成 15 年度末には完成版の「支援マニュアル」を刊行する予定です。ですので、このマニュアルを使用された通常の学級の先生方は、どうぞこの「支援マニュアル」を 1 年で終わりにせず、次年度の学級担任へ引き継がれ、「支援マニュアル」の効果や御意見等を国立特殊教育総合研究所分室までお寄せ頂けると幸いです。